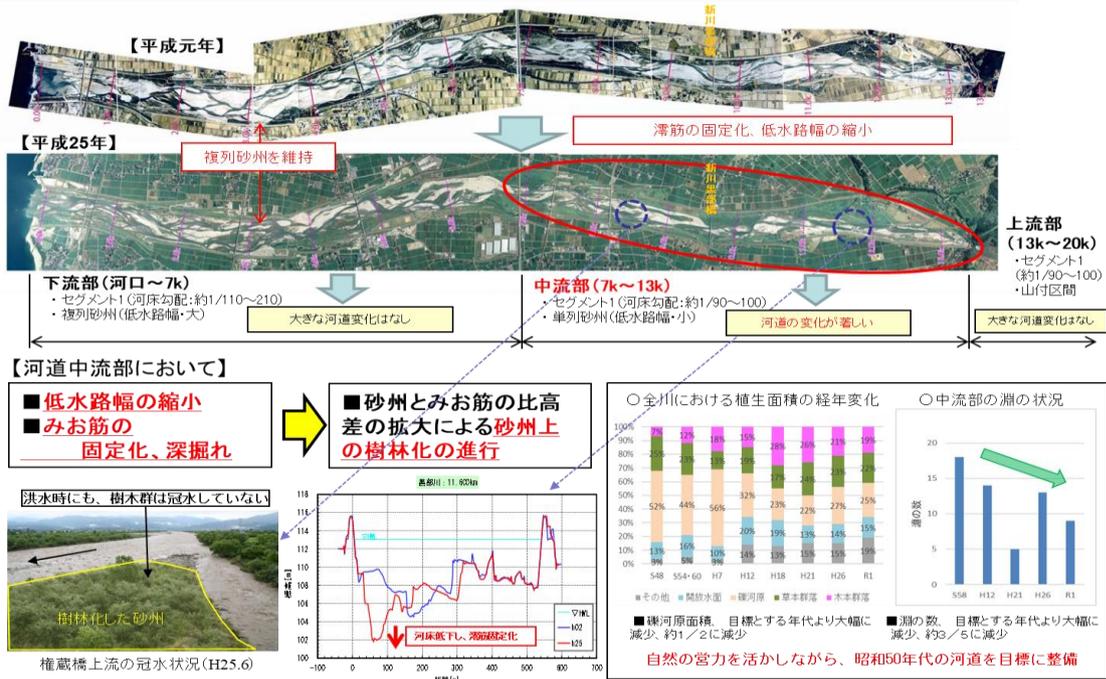


多自然川づくり取り組み事例

タイトル：黒部川における魚類(サクラマス)の生息実態調査について		
水系/河川名：黒部川水系/黒部川	河川分類：大河川	
河川の流域面 682	整備計画流量：5200m ³ /s	セグメント：1
事業：環境整備	事業開始年度 平成28年度	
目標設定：定量的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

魚類の生息環境が低下しているため、広大な礫河原、メリハリのある瀬・淵が分布していた昭和50～60年代頃の黒部川を目標として、黒部川の動植物の生息・生育に必要な河原環境、瀬・淵を保全・再生する必要が有る。



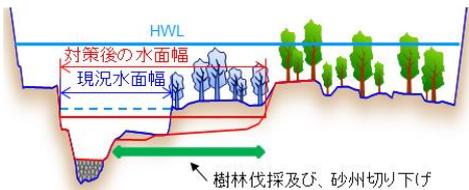
取り組み内容・対策例(1/2)

河原環境や安定的な淵の再生・創出により、黒部川の本来的な姿である攪乱によりアキグミ等が疎らに生育する礫河原、アユ、ヤマメ等の魚類が生息・生育できる水域環境を復元する。具体的には、礫河原の面積、サクラマスの越夏場所、産卵場所の分布量を指標として自然再生を行う。

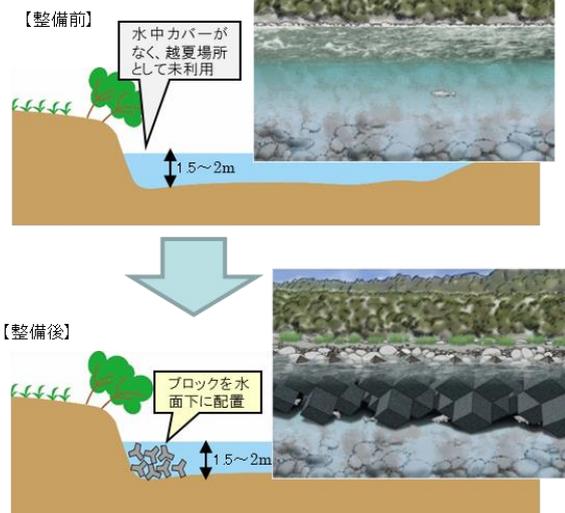
整備の考え方

- ① 河道整正により川幅を広げ、極力自然の営力により河原環境、魚類等の生息環境となる瀬・淵環境を再生させる
- ② 出水時等の魚類の退避場として、やすらぎ水路を維持・改善する
- ③ 異型ブロック等を用いて水中カバーを形成する

<河道整正の対策イメージ>



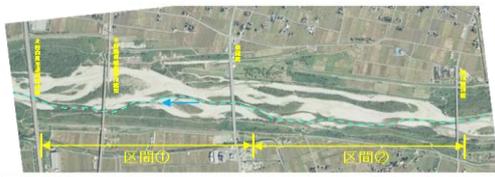
<水中カバー整備イメージ>



取り組み内容・対策例 (2/2)

整備の状況

H25垂直写真



樹木伐採並びに砂州の切下げにより礫河原が再生された事で滞筋の固定化・単調化が解消。今後出水時に砂州が擾乱される事により礫河原が保全され黒部川本来の河川環境が回復する事が期待される。

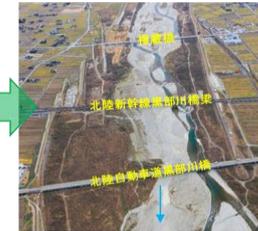
R2垂直写真



H24斜め写真



R2斜め写真



瀬・淵の再生状況 (越夏場の整備)



モニタリングの結果、サクラマスやヤマメなどの魚類が越夏場として利用している事が確認されている。

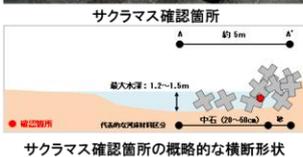
モニタリング結果、ア・ヒールポイント、今後の対応方針

調査実施にあたり、潜水調査や越夏場調査を行い、生息環境の物理特性を把握の上、次期整備・設計にフィードバックする。内水面漁協との意見交換会やヒアリングを実施し、サクラマスの生息場所・環境等について情報交換を行い調査を実施している。

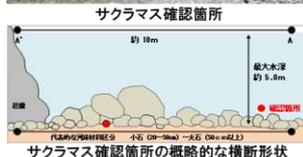
R4モニタリング結果(越夏場)

潜水観察調査において、表2に示す計6種の魚類を確認。

サクラマス(成魚)は、8.6k-Lで2個体、13.4kで1個体を確認し、越夏場所としての利用を確認。



環境測定結果	
理化学的環境	水温 14.9°C
	pH 7.98
	電気伝導度 3.91mS/m
物理的環境	水深 1.2m
	流速 0~50cm/s
	空隙の大きさ 高さ50cm
	奥行80cm
	幅 80cm



環境測定結果	
理化学的環境	水温 14.1°C
	pH 6.35
	電気伝導度 4.27mS/m
物理的環境	水深 5.0m
	流速 0~20cm/s
	空隙の大きさ 高さ30~60cm
	奥行20~40cm
	幅 80~100cm

モニタリング結果を次期整備にフィードバック

備考